

原子力安全セキュリティ・グループ（NSSG）報告書（概要）

平成29年5月27日

1. チェルノブイリ・プロジェクト

- ・チェルノブイリ・サイトを安定かつ環境的に安全な状態にするための新シェルターの年内完成と使用済燃料中間貯蔵施設の運転開始は、国際社会が支援しているプロジェクトにおける重要なマイルストーンとなる。
- ・原子力安全セキュリティ・グループ（NSSG）は、新シェルターと使用済燃料中間貯蔵施設の効率的かつ成功裡の完成を確実にするために、ウクライナ政府がすべての必要な制度的及び財政的措置を採ることの重要性と必要性を強調する。

2. 原子力安全における国際的な法的枠組みの強化

- ・NSSGは、原子力安全に関連する条約の締約国数を増やし、条約の効果的な実施をさらに促進するために、福島第一原発事故の教訓を踏まえつつ、引き続き努力する。
- ・NSSGは、原子力安全に関するウィーン宣言に掲げられている原則を含め、原子力安全条約の締約国における批准と効果的な実施の重要性を強調する。
- ・NSSGは、すべての国に対して原子力損害賠償条約の締結を呼びかける。

3. 核セキュリティにおける国際的な法的枠組みの強化

- ・NSSGは、核セキュリティ・コンタクト・グループの設立を歓迎する。コンタクト・グループは、核セキュリティ・サミットによって生み出されたモメンタムを維持し、世界の核セキュリティを強化する上での協力と持続的な関与を促進するのに役立つ。

4. 原子力安全及び核セキュリティにおけるIAEAの活動

- ・NSSGは、福島第一原発事故の原子力安全の強化における世界的に重要な進展は、国家による実行、並びにIAEA事務局、IAEA加盟国及びその他関係機関が取り組んだ多くの活動の成果であると認識する。

5. 緊急事態への準備及び対応における調整

- ・NSSGは、福島県に指定されたIAEAの緊急時対応援助ネットワーク（RANET）の能力研修センターによる加盟国の緊急事態への準備及び対応に関するキャパシティビルディングへの貢献について特に認識する。

6. 放射性廃棄物管理と廃炉に関する課題

- ・NSSGは、福島第一原発における廃炉・汚染水対策が国際社会との緊密なコミュニケーションの下でオープンかつ透明性をもって着実に進められていることを歓迎する。

7. 人的側面と原子力安全及び核セキュリティ文化

- ・NSSGは、放射線教育を含む関連技術の発展のためのキャパシティビルディングや知識保全を支え、健全な安全及び核セキュリティ文化を確立する各国及び国際的なイニシアティブを奨励する。これに関連し、NSSGは、平和的利用イニシアティブ（PUI）の重要性を強調する。
- ・NSSGは、すべての原子力施設及び原子力資機材の輸出国が「公的輸出信用機関のためのOECDコモンアプローチ」を遵守すること、また、輸出先国が関連するIAEAピアレビュー・ミッションの受入れを確保することを奨励する。